

施策番号	114	施策名	高齢者福祉の推進	主管課名	保健福祉課
総合計画 体系	政策名	1	こころあたたかい福祉の里づくり	令和 2 年度課長名	水島 剛
	関係課名			シート作成者	井手 俊文

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	
ア	65歳以上の高齢者	→	ア	人	見込値			4,694	4,788	4,720	
						実績値	4,740	4,726	4,757		
イ	要介護支援認定者	→	イ	人	見込値			859	848	843	
						実績値	855	860	878		
ウ		→	ウ		見込値						
						実績値					
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度	
ア	生きがいをもって生活してもらう	→	ア	%	見込値	3.2	3.1	3.0	2.9	2.8	
						実績値	1.1	2.9	2.7		
						達成率	290.9%	106.9%	111.1%	107.4%	103.7%
イ		→	イ	人	見込値	4,180	4,190	4,200	3,900	3,900	
						実績値	3,975	3,975	3,906		
						達成率	95.1%	94.9%	93.0%	100.2%	100.2%
ウ	適切な福祉サービスを受けてもらう	→	ウ	%	見込値	38.0	39.0	40.0	31.0	32.0	
						実績値	30.9	26.0	44.0		
						達成率	81.3%	66.7%	110.0%	141.9%	137.5%
エ		→	エ		見込値						
						実績値					
						達成率					
⑤ 成果指標設定の考え方		ア 高齢者福祉は生きがいをもって生活していることが原点であるため イ 老人クラブ会員は生きがいをもって生活していると考えられるため ウ 数値が高いということは福祉が充実していることととらえることができるため		⑥ 成果指標の把握方法と算定式等		ア・ウ 町民アンケート(対象者1,000人中481人が回答) イ 社会福祉協議会調べ					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	一人ひとりが生きがいを持ち、健康づくりや介護予防に主体的に取り組む。 いつまでも住み慣れた土地で生活するために、支援が必要な人を互いに支え合う地域の力を高め、支え合いの体制作りやその運営に努める。	高齢者の生きがいづくりや健康づくり、介護予防の支援のための場所の整備、運営の支援や助成、介護保険事業の適正な運営、介護保険制度や介護サービスに関する情報提供や開示に努める。住み慣れた地域で自分らしい生活を継続できるよう、地域包括ケアの実現を目指した地域社会の仕組みづくりや環境づくりに努める。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因		
2年度 の 評価結果	① 成果指標の時系列比較 (成果は向上したか? 低下したか? 要因は?) 「生きがいは特にない高齢者の割合」は前年度に比べ0.2ポイント減少した。通いの場だけではなく、出掛ける機会が増えた可能性があるが、通いの場までの交通手段の整備をおこない、出掛ける機会を増やすことが必要である。適切な高齢者福祉サービスを受けられていると感じる町民の割合は、前年度に比べ18.0ポイント増加した。在宅で生活を続けるために、福祉用具の貸与・住宅改修の利用者が増加していることが要因と考えられる。	<input type="checkbox"/> 向上した <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 低下した
	② 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?) 介護保険認定率は鏡野町は18.3%で、岡山県の20.8%よりは低く、全国の18.8%に近い水準にある。要支援・要介護認定者1人あたりの定員は、居住系サービス(グループホーム等)は鏡野町は0.124人で、全国(0.077)、岡山県(0.089)、美咲町(0.064)、真庭市(0.059)よりは多く、津山市(0.132)より少ない。通所系サービスでは、全国(0.225)、岡山県(0.250)や近隣市町村(美咲・真庭・津山の平均0.224)に対し、0.360人と多くなっている。	<input checked="" type="checkbox"/> 高い水準 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
	③ 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?) 高齢者福祉計画で行った町民アンケートでは、介護予防への取り組み、認知症の予防について高い関心を持たれている。また、常時介護が必要となった場合でも現在の住居にそのまま住み続けたい人が一番多く、次いで施設に入所したいとなっている。	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取組や目標達成度		
■ 2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?) 介護予防・日常生活支援総合事業を開始して、3年が経過した。地域個別ケア会議を毎月開催している。社協と4事業所に委託し「ヘルサポかがみの」の訪問事業、「マッスル道場」・「脳トレ」・「生き生きの湯」の通所事業を実施。5事業所と委託契約を締結し「給食サービス」の生活支援事業を実施した。 てごなま・生活応援隊に登録し活動してもらうことで、生きがいをもって生活できる環境づくりに努めた。 地域包括ケアシステムの確立に向けて、医療・介護連携推進事業及び認知症総合支援事業を継続して実施したが、新型コロナウイルス感染症のため「すみやすい町づくり会議」を開催することはできなかった。 地域ケア会議を随時開催し、ハツラツサークルを広める取り組みを地域包括支援センターを中心に実施した。 会議を開催することで地域や状況別に多様な課題がでて、協議をおこなっている。		<input type="checkbox"/> 目標値以上 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値以下
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向 (うまくいかなかった取組や事務事業は? その原因は?)		
介護予防や高齢者が生き生きと活動できる体制づくり、地域で安心して暮らせる体制づくりは、高齢者自身や地域、事業所、行政が協力して取り組まなければならない課題である。 介護予防・日常生活支援総合事業は平成29年度から開始したが、地域で開催できる通いの場をつくること、利用しやすい制度とするために、社協や委託事業所と協働して、課題の解決に向けて、関係機関で引き続き協議や検討を行っていく。また、一人ひとりが健康づくりや介護予防に主体的に取り組む、支援が必要な人を互いに支え合えるような地域づくりや、福祉や医療等の社会資源を活用し、地域包括ケアシステムの確立・共生社会に向けて引き続き取り組む。 また、給食サービス、生活用具給付、住宅改修、見守りシステムなど、在宅での生活支援を積極的におこなっていく。		